

第1回防府市生涯学習推進計画策定委員会 会議要旨

- 1 開催日時 令和3年7月13日(火)9時30分から10時30分まで
- 2 開催場所 文化福祉会館 3階4号大会議室
- 3 出席委員 16人
- 4 概 要 (発言要旨の文書表現は、簡略化しています)

(以下「防府市生涯学習推進計画策定委員会」を「委員会」として表示する。)

- (1) 教育長あいさつ
- (2) 委員会委員自己紹介
- (3) 委員長・副委員長選出
- (4) 委員長・副委員長あいさつ
- (5) 議題について

(委員長)

議題(1)「第3次防府市生涯学習推進計画(以下、推進計画)について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(1)「第3次防府市生涯学習推進計画について」説明。

- ・計画の策定体制
- ・策定スケジュール
- ・計画策定の趣旨
- ・計画の位置付け
- ・計画の期間
- ・第2次生涯学習推進計画における取組の課題
- ・「生涯学習に関する意識調査」にみる現状と課題

(委員長)

御質問・御意見等あればお願いします。

(委員長)

生涯学習推進計画を策定するにあたって、この計画がどういったものか、簡単にその重要性などを説明していただけると、共通理解のもと、会議に入りやすいように思うのだが。

(教育長)

第3次防府市教育振興基本計画の今後取り組むべき施策の柱の一つに、『一人一人がきらめく生涯学習の推進』とあるように、市全体の取組みの一つとして、生涯学習に取り組んでいくよう、推進計画を策定するところである。

(委員長)

了解した。その共通理解で委員会を進めようと思う。

委員の方へ、御質問・御意見等、感想でも良いので、あればお願いします。

(A委員)

計画内のグラフの色が見えにくい。前回の計画と見比べても小さいため、少し大きく調整してもらいたい。

(委員長)

貴重な御指摘ありがとうございます。

(B委員)

参考資料（第2次防府市生涯学習推進計画における主な取組の成果と課題について）について、計画に掲載している数値目標がどこの施策に関連しているか等についても分かるが良い。

また、防府市生涯学習フェスティバルの実行委員長（役員）などは、PTAの方に経験をしていただくなど、生涯学習に関する人材育成について、今後を見据えた対応が必要ではないか。

その他、何かあれば文章を送らせていただく。

(委員長)

計画自体の細かいところは次回以降詰めていく予定であるが、この計画をこれから策定していくにあたって、他委員の方についても意見や感想など、何かあれば事務局に連絡をするようお願いしたい。

(C委員)

5PのSDGsの説明図について、第3次防府市教育振興基本計画（P24）と同様に各目標についての説明を加えるべきではないか。

また、生涯学習に関する取組が、関係団体を通じて広がり、地域の方の喜びやつながりなどに還元されていることが分かるような記載があればよい。例として『聞いて得するふるさと講座』の活用が挙げられる。

(委員長)

計画自体を市民の方のものにできるよう、大切な御意見ありがとうございます。

(D委員)

これからの策定のプロセスについて伺いたい。

(委員長)

今回は、これからの計画の大まかな流れの確認と、それぞれの立場から人づくり地域づくりについて、考えがあれば伺おうと考えていた。具体的な内容については事務局に連絡し、次回までにそれを事務局が反映させて、それを点検・修正をしていきながら計画を固めていくという流れになる。

(事務局)

委員長が言われたように、各委員からの意見を次回までに反映し、素案を作成して次回の委員会でお示しし、その後基本目標と素案について再度検討し、この12月から1月にかけてパブリックコメントを行う予定である。

(E委員)

生涯学習は非常に裾野の広い体系化された分野である。

計画の策定にあたっては、読み手の対象を明確化し、計画をどのように波及させていくのかといった計画の発信方法についての検討が必要である。

(委員長)

情報化社会において、市民の方への発信方法は重要になってくるだろう。事務局は参考にしてもらいたい。

(F委員)

SDGsについて、5Pでの説明だけでなく、目次や施策の方向においても分かりやすく掲載すべきではないか。

公民館の開館日や開館時間についての周知が十分ではないと感じる。

(G委員)

今までの意見に関連して述べたい。

SDGsの説明図について、第3次防府市教育振興基本計画（P24）と同様に各目標についての説明を加えるべきだと思う。

(委員長)

学校と地域の生涯学習に関して、なにか意見がないか。

(H委員)

学校教育に関して、学校現場では、今後、タブレット端末の活用がますます推進されると思われる。また、生涯学習の分野に関しても、学校は生涯学習の発表の場として良い場であると思うが、現在は、コロナ禍により活動にあたって壁がある。そういった点においてもタブレット端末の活用というものを今後は考えていかなければならないのではないかなと思う。

(委員長)

ご指摘のようにICTの活用はこれからの活動には必須である。

(I委員)

目標指標の設定において、基本目標1の防府市文化財郷土資料館入館者数（年間）について、現状（令和2年度）の803人に対して目標値（令和7年度）が3,700人となっていることについて疑問を感じるのだが。

(事務局)

骨格案でお示ししている現状は令和2年度のコロナ禍の状況であるため、通常よりは低い数値となっている。前回の計画を見ても、平成27年度の実績は約3,600人である。

今回の意見も踏まえ、今後令和2年度の実績を掲載するかどうかも含めて委員会で御協

議いただこうと考えている。

(委員長)

最後に、これからの生涯学習を考える際には、以下の4点について意識をする必要があると考える。

- ①人生100年時代における生涯学習の在り方
- ②社会の変化を踏まえて生涯学習はどうあるべきか
- ③地域の活性化を社会的包摂
- ④ICTの活用

以上で委員会を終了する。

(6) 事務局より次回の開催について案内。

(7) 生涯学習課長より閉会の挨拶